

アルパック ニュースレター

VOL. 132

発行/2005年
7月1日

ISSN 0918-1954



どろんこ田での田植え（本文中に関連記事があります）

目次 contents

- ・ 尼崎で近代建築を活用した「誇り高きまちづくり」が
はじまります 2
- ・ 滋賀県版特区の第2弾決定！～市町発意の新たな産業
活力創出目指して～ 4
- ・ 京都・四条の交通環境改善に向けた協働の輪 5
- ・ 北野保育園が竣工しました 6
- ・ 城崎町元薬師2号団地が竣工しました 8
- ・ 環境財 9
- ・ 祝園みなみ・まちづくり協議会(京都府精華町)の一年 ... 11
- ・ 交通施設の地域商業・交流拠点化 12
- ・ 楽農生活“どろんこ編” 13
- ・ まちかど 14

尼崎で近代建築を活用した「誇り高きまちづくり」がはじまります

〔大阪事務所／岡本 壮平〕

歴史文化ゾーンを中心「城内地区」

みなさんは尼崎に歴史文化ゾーンがあるのをご存じですか。阪神尼崎駅の南にはかつて尼崎城があり、城下町が広がっていました。現在は、残念ながらお城は残っていませんが、町割や寺町、街道、近代建築物などが残っています。

城内地区は、いわば「尼崎発祥の地」であり、街の繁栄の基礎となった、尼崎にとって特別な地区といえる場所です。

近代化の過程でお城は取り壊されましたが、学校や病院、警察など公共施設がまともにおかれ、明治から昭和初期の近代建築が地区の資産として守られてきました。しかし近年の社会構造変化の中で、旧城内中学校は統合による廃校、旧尼崎警察署は震災以降遊休化しており、これら資源の保全・活用のあり方が課題となっています。

一方、城内地区は都心に近い便利な地区であり、阪神西大阪線の延伸開業（H22年予定）などによりますます利便性の高まりが期待されている地区でもあります。

城内地区まちづくり懇話会が発足

こうした中、「城内地区まちづくり懇話会」（座長：角野幸博武庫川女子大学教授）が設置され、この地に残る近代建築等を活用したまちづくりを市民・団体・企業・行政が一緒に考え



尼崎城跡推定図（尼崎市作成）

る取り組みがスタートしました。

第1回懇話会は6月11日に旧城内中学校で開催され、歴史的資産の保全活用に詳しい足立裕司神戸大学教授から解説を受けた後、現地視察が行われました。

■女学校の面影ただよう旧城内中学校

旧城内中学校は昭和8年に尼崎市立高等女学校として建てられました。本体校舎は口の字型の配置となっており、クローズされた中庭が安全安心な場所となっています。また控えめな中にも所々にモダンな装飾がなされ上品に落ち着いた雰囲気をつくっています。戦前の鉄筋コンクリート造学校建築が減少していく中、特に阪神間において本校舎の歴史的価値が高まっています。



旧城内中学校：
どっしりとした正門と女学校らしい端正な外観



口の字型配置の校舎に守られた親密な雰囲気の中庭

■ミステリー体験の旧尼崎警察署

旧尼崎警察署は大正15年に建てられました。地下1階（半地下）と地上2階になっており、地上階は震災前には児童館や柔剣道場として利用した時に改装しています。地下1階はほぼ当初のまま残されており、電気がないことも相まって留置場や取調室が不気味に迎えてくれます。三宮警察署が無くなり芦屋警察署も一部保存となった今、全体が残っている戦前の鉄筋コンクリート造警察署建物は県内唯一と言われています。一部雨漏りがひどく劣化が進行しており尼崎市が補修に乗り出しました。

近代建築を保全・活用する～言うは易し行うは…

成熟社会、地球環境時代、地方の時代を迎える中、文化財までは届かない建築であっても保全・転用・活用することは、従来型の「スクラップ・アンド・ビルド」から「ストック活用」への転換として語られます。城内地区での取り組みは、社会資本としてあるいは地域個性としての「ストック」である近代建築の有効活用を通じて、地域の魅力づくり・活性化につなげていこうとする都市環境デザインのチャレンジと言えるでしょう。

社会的寿命を終えた近代建築を保全しつつ新たな機能を付加し、生涯学習、文化、芸術、観

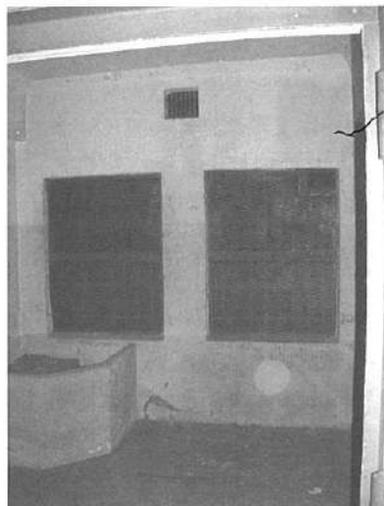


旧尼崎警察署：戦前のRC造警察署建物のうち、建物全体が残るのは県内唯一と言われる

光などの新しい息吹を地域に吹き込む拠点として再生する。そしてそれがまちのアイデンティティの拠り所となり、人々の愛着と誇りを育んでいくことになれば、近代建築にとってもこの上ない第二の人生でしょう。

近在では、神戸の北野工場のまち（旧北野小学校）、京都の京都芸術センター（旧明倫小学校）など廃校跡の活用事例があります。これら成功事例から学ぶべきは、単に建物のみを凍結保存的に残すのではなく、市民活動あるいは地域づくりの中で「生きた形」でいかに残していくか、ということです。そのためには、市民が管理・運営にまで参加するようなマネジメントの仕組みや場の整備、人材の育成プログラムなどといったソフト面の整備も表裏一体で整えていく必要があります。

実は歴史文化ゾーンには他にもユニチカ記念館、阪神レンガ倉庫、尼信記念館、椿本ビル、城内高校、旧開明小学校など近代建築がいっぱいあります。今回の城内地区での取り組みは、誇りを育むストック活用のまちづくりの幕開けとなるかもしれません。これからも、尼崎の歴史文化ゾーンにご注目下さい。



当初の姿がそのまま残る不気味な留置場

滋賀県版特区の第2弾決定！ ～市町発意の新たな産業活力創出目指して～



〔京都事務所／高野 隆嗣〕

「滋賀統合物流センター特区計画」を認定

弊社でお手伝いしている滋賀県経済振興特別区域(以下；県版特区)の今年度分として、米原市の「滋賀統合物流センター特区計画」が認定されました。5月17日に開催された滋賀県経済振興特別区域認定審査・評価委員会(委員長；堺屋太一氏)の結果を踏まえたものです。

米原市の計画は、新幹線「米原駅」や名神高速道路・北陸自動車道の「米原IC」など、近畿・中京・北陸を結ぶ交通の要所としての特性を生かし、物流拠点を整備する計画です。既に米原市や物流業者などの共同でプロジェクトが進められています。

地域ごとの特色ある産業振興のために

県版特区とは、市町の発意と独自性を基にした地域経済の活性化プランに対して、県が区域や事業内容を吟味したうえで「認定」を行い、認定後の5か年間で限りに税制優遇や各種助成金を中心とする支援策を講ずるものです。

県版特区の「制度元年」である平成16年度には、2つの特区計画が第一弾として認定され、着実な取り組みが進められています。長浜市の「長浜バイオ・ライフサイエンス特区」では、行政と経済団体によるバイオ産業振興協議会が立ち上がり、長浜バイオ大学の隣接地には、国・県の支援によるインキュベーション施設の整備を進めています。大津・草津両市による「びわ湖南部エリア新産業創出特区計画」でも、滋賀医大、立命館大学、龍谷大学等との連携により、着々と大学発ベンチャー等の創出・成長に向けた支援が進められています。

大津・草津地域では新たに「びわこ産業インキュベーション・スポット推進委員会」もスタートしました。これは市町発意の県版特区を更に一歩進めて、滋賀県全体更には近畿全域を視野に入れて新産業創出をリードする産業クラスター中核拠点を形成しようというものです。県・市はもとより、3大学、地元関係企業、国等の参画で、実質的なアクションに繋げることを目指しています。

ご案内の通り、国の構造改革特区では、既に延べ7回、5百にのぼる特区認定がされていますが、滋賀県版特区は地域の強みを活かした特色ある産業施策として興味深い試みです。

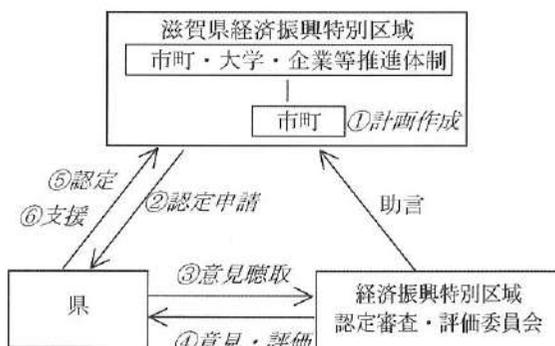
京都府内でも新たに「新産業創造特区」導入が検討されています。スタンフォード大学のエドワード・A・ファイゲンバウム教授の提唱する「起業特区構想」を下敷きに、ベンチャーの創業と企業の成長を促す仕組みを作るものです。

マザーレイクを守り育む滋賀産業

創意工夫による地域づくりの取り組みを、単に「産業施策」と呼ぶのは不正確な気がします。6月17日に開催されたびわこ産業イノベーション・スポット推進委員会の初会合における、中小企業経営者の某委員の発言がこの点を象徴しています。「滋賀県の産業振興を考える際、最大の資源は琵琶湖である。琵琶湖を世界一美しい湖にすることを共通目標にすれば、環境基準の厳しい欧州に負けない技術と品質を我々は生み出すことが出来る。琵琶湖のブランド価値を高めることもできる」とのこと。

地域に根ざす企業としての意気込みが伝わってきます。グローバルな経済活動の中にあっても、地域の持続的発展と競争力強化を志向する、まさに地域振興の真髄につながる金言です。

県版特区のスキーム





〔京都事務所／大久保 悠子〕

タクシーチケット事業(第二弾)を実施

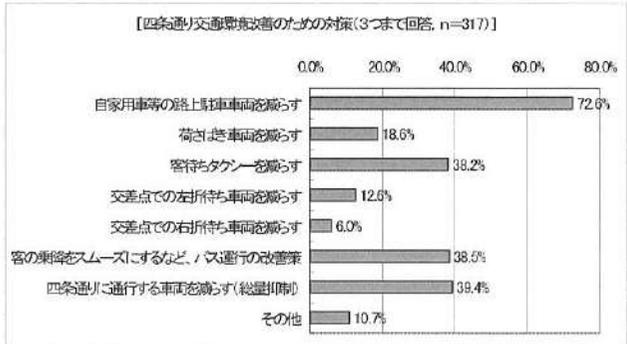
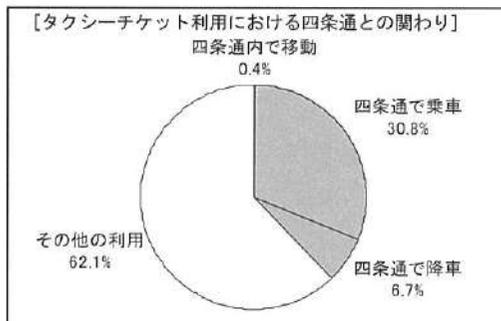
「京都のメインストリート 四条通」における「風格と華やぎのメインストリート」づくりの続報です。四条通の交通渋滞の原因の一つである「客待ちタクシー」の解消に向け、昨年、四条繁栄会と京都タクシー業務センターの共同で、四条通の交通環境向上に係る「申合せ」を行いました。そのシンボルプロジェクトとして夏季と秋季の二回取り組まれたのが「タクシーチケット事業」です。夏季事業（平成16年6月より約2ヶ月間実施）では、残念ながらタクシー・マナー向上に成果が見られず、「即効性よりも長期的な視点で取り組む重要性」をお伝えしました（vol.128）。

さて、秋季タクシーチケット事業の成果はどうだったでしょうか。平成16年11月1日より約1ヶ月間、夏季より3千枚多い8千枚のチケットが配布されました。この期間に合わせて、私たちは2つのアンケートの実施をお手伝いしました。1つはチケット利用者の属性と行動を尋ねる「全チケット利用者アンケート」、2つ目はチケットを受領したタクシー運転士に当該事業への意見を問う「運転士アンケート」です。

タクシーチケット利用者実態調査

アンケートはチケット裏面に記入してもらうもので、期間内に配布された8千枚のうち、期日までに回収されたのは約3,700枚、回収率は46%でした。

お客様に四条通で買い物をしてもらい、「お帰りはタクシーで！」という狙いでした。実際に、四条通を基点にタクシーを利用されたのは



全利用者の4割という結果です。その多くは「京都都心における短距離利用」が多く、特に「四条通～京都駅」間の利用が目立ちます。日常的な交通混雑でバスが遅延がちなため敬遠されること、河原町界隈は地下鉄四条駅と離れていること等が想定されます。

タクシーチケット利用者像は、女性が7割を占め20代と50代が特に多く、京都市内在住者の利用は全体の7割以上を占めました。

タクシー運転士アンケート

運転士アンケートの回収数は約300枚。運転士の75%が四条繁栄会とタクシー業界による今回の「申合せ」を肯定的に捉えていますし、本事業についても79%が「事業者とタクシー業界の共存共栄のための貴重な取り組みである」と評価しています。本事業の継続の実施を求める声も82%と高い評価と期待が伺えます。また、都心の交通環境改善対策として「自家用車等の路上駐車を減らす」が約73%のほります。

事業結果のまとめと今後の方策

タクシー運転士アンケートは低回収率に終わり、タクシー会社によって協力の度合いも大きく異なりました。今後の取り組みは、タクシー業界による一層の啓発活動と、硬軟両面の協働事業を検討することが不可欠です。

いずれにしても今回の事業の着目すべき点は、他者との協働により地域の問題を克服していく地元の姿勢にあります。京都のメインストリートならではの来街者が楽しく歩ける環境づくりにむけた今後の展開が楽しみです。

北野保育園が竣工しました

〔京都事務所／中嶋秀介 技術参与／倉本恒一 バードデザインハウス／鳥山大樹〕

「魅力ある北野保育園づくり」を目指して 設計編

さる5月29日北野保育園の竣工式が催されました。工事は昨年6月に着工し、今年の3月竣工して卒園式は新たな園で迎えられました。1920年京都府共済会によって創立された西陣託児所（定員100名）が北野保育園85年歩みの始まりであり、京都における児童福祉施設の先駆けでもあります。

その後、北野保育園は1933年に京都府社会事業協会西陣隣保館となり、戦時中は一時北野戦時保育所とも呼ばれ、1944年に西陣隣保館が京都府厚生事業協会北野厚生会館に改称されたことに伴い北野保育園と改称されました。経営母体は1952年に社会福祉法人京都社会事業財団となり現在に至ります。

西陣は京都の伝統産業である西陣機業の生産拠点で貸織業者が集中した地域であり、保育園は産業振興の一翼を担うものでもありました。また今では西陣に生まれ、親子3代に渡って卒園した家族もあり、地域の人々と密接な関係が築かれてきました。

園舎は1972年にそれまでの老朽化した木造建物が鉄筋コンクリート二階建てに全面が建替えられ、定員も150名となりました。アルバックはその時以来35年以上のお付き合いになります。1989年には遊戯棟の増改築、その後、給食室の改装や保育室の内装改修など園舎の整備を重ねてられました。

この度は隣接する同じ法人である西陣病院が地域医療の充実を図るため増改築整備をするのと併せて、保育園を移転、新築することになりました。御厨（みくり）園長は、園舎の移転についてはかなり悩まれましたが、法人全体として地域サービスを向上するためと、またこれからの新たな保育ニーズに応えるため、園舎の再整備を決断されました。

新たな園舎の骨格は南側の園庭を囲んで園長室側から見通しのきくL型プランとして従来の園舎のプランを踏襲しています。今までと大きく変わったのは0才～2、3才児の保育室を1階に、3才～5才児の保育室を2階に従来の逆にしたことです。それは乳児保育のニーズ拡大

に応じて0、1才児のスペースを広くし、かつ最も目の行き届く場所に配置することと併せて要望が増えつつある時間外保育にも対応するため、時間外に残された子供達を1ヶ所に集められるようにしました。

また、子育てに関する相談や各種教室の開催、お年寄りとの交流など新たな機能に対応するため3階に子育て支援室を設けたこと、一時保育にも対応できるように予備の保育室を増やしたことなど、これからの機能の変化に対応できるようにスペースを確保しました。

最近には特に施設の安全対策が厳しく求められ、運営面と共にハード面での対策が必要です。日照や通風の他、衛生面、角部の面取りなど、従来通り注意しなければいけない事項はもとより、最近問題となっている不審者の侵入対策などセキュリティ面や、有毒物質を出さない建築や家具類の材料と工法など室内環境を含むあらゆる安全面について従来の良いところを生かし、改良すべき点を徹底して検討しました。

建物の屋根は遊戯室と子育て支援室の屋根に苔シートを貼って断熱効果と輻射熱を抑え環境への配慮から緑化を図っています。苔シートは水撒き等のメンテナンスが不用であり、軽量で施工性がよい緑化システムです。

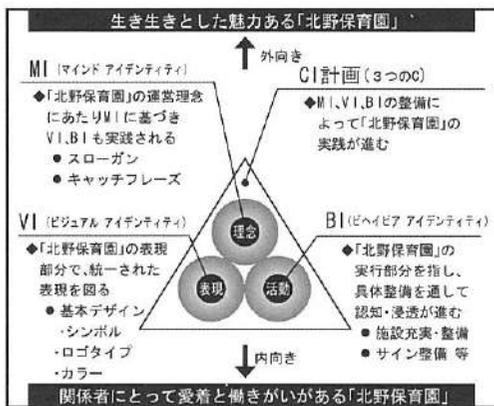
さて、先ほど御厨恵三子園長が瑞宝双光章を叙勲され長年に渡る児童福祉部門での功績を称えられました。子供達への保育に対する情熱は今でも衰えることなく活躍されている姿に敬意とお慶びを申し上げますと共に、これからも無理をせず元気に続けられることを願っています。（中嶋秀介・倉本恒一）



全景俯瞰

「魅力ある北野保育園づくり」を目指して：CI編

保育・幼稚園、学校は生き残りをかけたサバイバルゲームの状況を呈している。そんな中で、子ども達が生き生きとし、保護者に満足を与え、職員が働く充実感を持つためには、どうすればよいのだろうか。幾度となく設計とデザインを入口に園の運営について会議を重ね、「教育（人間形成→社会福祉・奉仕性）」と同じ比重で、「企業の視点（経営立脚→社会貢献）」という認識で「保育園経営＝CI計画」取り組んでいくことになりました。その理念にあたる部分を以下の「3つのC」に集約させ、整備を進めました。



1) 企業側面（コーポレート・アイデンティティ）

「魅力ある北野保育園づくり」の早期達成・充実のためにハード面（施設、遊具・掲示案内板、室名板等）からソフト面（園のロゴタイプ、マスコット、キャッチフレーズ、カラー設定、ポスター、パンフレット、冊子等）の制作を通し



園庭

て、園のイメージ統一を図り、「一企業体」という考え方に立って整備します。

2) 地域づくり的側面（シティ・アイデンティティ）

その積み重ねによって「魅力ある北野保育園イメージ」が創られ、保護者や地元住民に信頼や連帯感を与えるよう整備します。

3) ネットワーク的側面（コミュニティ・アイデンティティ）

さらに、積極的に地域コミュニティ活動を進め「育みの場」の充実や、職員に「働く楽しさと喜び」を持ってもらい、対外的にも評価が得られるよう整備します。（鳥山大樹）

具体的デザイン制作物

笑顔・いっしょに! ①



北野保育園 ③

Kitano ④
NURSERY SCHOOL



⑤



① スローガン

④ 英文ロゴタイプ

② トレード・マーク

⑤ シンボル

③ 和文ロゴタイプ

⑥ パナー（旗）

城崎町元薬師2号団地が竣工しました



〔京都事務所／山崎 博央〕

アルバックと城崎町の歴史は深く、西山卯三先生と取り組んだ総合計画から、一の湯、御所湯、地藏湯、鴻の湯といった外湯や観光施設の計画・設計から、最近ではHOPE計画やストック活用計画といった住宅政策の策定など、これまでに数多くの業務をお手伝いさせていただきました。

その城崎町もこの4月に市町村合併により、豊岡市となり、駅名も「城崎」から「城崎温泉」に変わりました。今回ご紹介する元薬師2号団地は、城崎町営住宅としては最後の建て替えとなった団地です。

プロポーザルコンペにて採用

城崎町では、定住の受け皿となる住宅が不足しており若者の人口流出が著しいこと、観光産業従事者が多く借家率が3割を超えていること、建物の老朽化や経営者の高齢化により借家が減少傾向にあること、といった住宅を取り巻く課題があり、民営借家にお住まいの方の老後の居住環境としても、公的借家への期待度が高い状況にあります。そのような中で今回、町営住宅の建て替えを進めるにあたり、プロポーザルコンペ方式で設計者の選定が行われ、アルバック案が採用されました。

元薬師2号団地は、大谿川沿いに位置する南北に細長い団地で、もとは8戸1棟の老朽化した簡易耐火2階建て住宅が3棟24戸建っていました。今回の建て替えにより鉄筋コンクリート造3階建て22戸の住宅に生まれ変わりました。

安心して住み続けられる社会資本として、かつ民営借家再生のモデルとなるような団地とすること、温泉の町・城崎のまちなみにとけ込む外観とすること、さらに『顔の見える安心感』のある「まち（団地）再生」を進めるために、設計段階から入居者参加の取り組みを推進すること、を建て替えにあたっての主な基本方針としました。また大谿川沿いは観光客の散策路にもなっているため、観光客にも貢献できるような工夫にも配慮しました。

健康と環境に配慮した住まいづくり

住宅の機能的な特徴は「外断熱」工法を採用しているところです。シックハウス対策はもち

ろんのこと、結露が原因となって発生するカビ・ダニ等による健康被害を発生させないことや、空調負荷を抑えることで省エネルギーに貢献すること、躯体の耐久性を向上させ、ストックの長寿命化を図ることなど、これからの住宅には「健康」と「環境」に配慮することが不可欠となっています。

外断熱は、欧米では古くから取り入れられている考え方で、最近では国内でも「結露が発生しにくい」「1日の室内温度の変化が少ない」といった実績が報告されています。

まだ課題点もありますが、健康で環境にやさしい住まいづくりの1つの方法ではないかと思えます。

「顔の見える安心感」のあるまちの再生

今回の建て替えは従前に住んでいた方の多くが再度入居するということから、設計時に住民懇談会を開き、新しい住まいについて一緒に考える機会を持ちました。住民の方からもいろいろな意見が出され、どうすれば暮らしよい住宅になるかということについて、みんなで話し合いました。

高齢の入居者が多い中で、安心して老後を暮らすためには、お互いの支え合いが欠かせません。今回の取り組みは、顔見知りですが、もう一度「顔の見える安心感」をお互いに確認する場になったのではないかと思います。

昨年は台風23号による影響で、工程が大幅に遅れましたが、現場の努力の甲斐あって、去る3月吉日、ようやく竣工しました。ちょうど大谿川沿いの桜並木がつぼみをつけ始めた頃です。住宅の前には木のベンチが並んでいます。春には満開の桜を前に、どんな話に花を咲かせていたのでしょうか。



環境財

【取締役会長／三輪 泰司】

前号に、名古屋の尾関所長から、愛・地球博のホットなニュースが寄せられました。このところ、1970年の日本万国博関連のウェブサイトも賑やかです。博覧会は大昔から文明をリードするエキサイティングなステージでした。

疾風怒涛と花

あれから35年。万国博の基礎調査研究が始まったのは、1965年11月でしたから、私どもにとっては40年になります。

基礎調査は2ヶ月で印刷まで。以後僅か5年で、会場計画、造成設計からパビリオンの建設、展示までやってのけているのです。

ドイツ文学の授業で、18世紀半ば過ぎ、若きゲーテ、シラーそしてクリンガーなどの運動— Sturm und Drang を聞いてイメージしていた疾風怒涛とはこんなことかなと思いました。

会場計画は、当時はまだプランニング・コンサルタントなる組織がなくて、東京の参加も得て、建築事務所などからのピックアップ・チームを編成し、御堂ビルのワンフロアを借りて、臨時事務所を開設して当たりました。

計画の元になる入場者予測は、2,600万、3,000万、4,440万の3つありました。平均の3,000万をとり、1日最大ピーク40万で施設面積を配分しました。最終案はもっと多くなるのではと、4,000万で計画しています。

フタを開けると、会期6ヶ月間の入場者数は、なんと6,421万8,770人。それで、190億円も余剰金を出し、撤去費等に40億を充て、残り150億を基金に記念協会を作ったということが、以後、博覧会は儲かるという伝説をつくってしまいます。しかしこれは、建設費・運営費と入場料やグッズ販売料等との収支で、用地費や関連の道路・鉄道など公共施設整備費、つまり投資的費用は別です。収入も国庫補助金などは余剰が出て返していません。よくいえば、国民共有の資産が増えたということですか。

図は事務所の入り口に掲げていたチームのシンボルマークです。京都造形芸術大学名誉教授の久谷政樹氏当時28歳のデザインです。CIの

嘴矢とってよい記念すべき作品です。

すてきだったのは、絶やすことなく、マークの周りに花を添えてくれた事務所の女性です。5ヶ月ほど、殆ど家にも帰れず、連続徹夜でくたくたのスタッフを元気付けてくれました。因みに、京都大学の“楠”をモチーフにしたエンブレムも久谷氏のデザインによります。

6月7日、第2次案を完成しました。マスタープランから電力・エネルギー・給排水・造成計画、工事費積算そして巨大な模型まで作成しました。

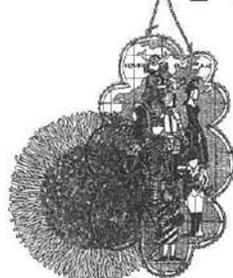
地域計画の始まり

かくて、我が国は万国博をスプリング・ボードに、高度経済成長へ邁進します。万国博の会場計画と広域関連事業計画という母胎から、地域計画なる業務と職能が生まれました。

創立25周年誌に、日本万国博は、方法論と人的関係の2つでアルバック創業の基礎に関わったと、記しています。人的関係とは尾関所長が紹介しています3人の創業メンバーの出会いです。この3人、歳もずれてはいますが、生まれ育ちも違います。平均年齢は当時28歳。

浅田恵弘さんは、ニューヨークのランドスケープデザイン事務所でインターンをしてハーバード大学のグラデュエートスクールを修了して帰り、京大大学院へ復学したところ。霜田稔さんは、早稲田大学の吉阪隆正先生のお供をして国際建築家連盟ハバナ大会に参加し、帰り道にチューリッヒの Architect Beviggen Buro で働いて旅費を稼ぎ、京大大学院の試験を受けたところ。私は東京で6年、病院建築・社会教育施設・幼児施設を学んだ後、遠回りしてソ連経由でヨーロッパへ、最後はアテネの Doxiades Associates まで行き、帰ったところを、建築学会が受託した東北ニュータウンの計画にほうりこまれていました。

PLANNING
FOR
EXPO'70



この3人、共通しているのは、好奇心旺盛、物怖じしないことと、京大西山研究室の絆、即ち方法論でしょうか。

ニュースレター No.76～8(1996.3～11)「アルパック・ベンチャーの道程と展望」に書いていますが、あつかましくも、まだ世間で知られていない「地域計画」なる名称を付けて乗り出したものの、食っていけるかどうか、判りません。ベンチャーとは、向こう見ずの精神と、何となくこの道だという感性と、必死になって職能と経営を勉強することでしょう。3人にその素質ありと見込んだ西山教授、結びつけた研究室の番頭・上田篤助教授は優れたコーディネーターでした。

テーマの検証

35年前、アメリカはアポロ11号が持ち帰った月の石、ソ連は宇宙船ソユーズを目玉に競い、外国へのあこがれ、宇宙時代のロマンが6,400万人もの熱気と呼んだのでした。

国際博覧会はその時代の文明の先端を拓きます。矛盾や軋轢も起します。「ユートピアだより」で機械文明批判、創造の時代復興を唱えたウィリアム・モリスは、子どもの頃、ロンドン万博へ連れて行かれてブリキ細工のマントルピースなどに嫌悪感を抱きました。それから40年ほど後、レーモンド・ローウィは、流線型＝ストリームラインのスタイルをつくり、ハーバード・リードは工業デザインの入門書を出します。

文明を進歩させる原動力は燃えるような理想。それを矛盾と批判が鍛える。それを乗り越えて行く創造力は、職人技に学び、新しい技を重ねます。それを生産に結びつけて行くには、さらに手順があり、時間が掛かります。

日本万博では、高低差60mくらいの尾根をとばしてしまうような造成工事で、土木の技術と機械が進歩しました。博覧会建築は「仮設」ですから、思い切ったことができます。お祭ひろばの大スパン架構で材料と構法を開発しています。順序からは技術と経済が、先になってまっしぐらに走り出しました。理想即ちテーマ「人類の進歩と調和」の「進歩」のほうです。

一方、水の循環リサイクルは、サブテーマの

一つでした。電気自動車も走りました。日本庭園は、伝統の職人技を活かし、花鳥風月の風景を表現し、いまでは“森”になってきました。“調和”の方がクローズアップされるようになるのには、35年掛かっています。

万博の活かし方

1994年、BIE(博覧会国際事務局)は、第115回総会で「国際博覧会は、地球的課題の解決の場」にすべきであると決議しています。

ちょっと難しいです。実は、それが智慧の源なのですが、洋の東西を問わず、庶民は物見高くて、遊び好きで、勘定高いものと相場が決まっています。その庶民感覚で日本万博を評価しますと、3つになるでしょう。

第一に大小とりまぜて77ヶ国もの出展。オランダやスペインだけでない。得たように思います。第二にエキスポランドやエスニックレストランがある。ディズニーリゾートとUSJが付いているようなもの。第三が時代の先端を行くテーマで、物見高い興味に加えて、少し賢くなったと満足感を持って帰ります。

「文化」というと「良いことですな」でとまり。これに“財”がついて文化財というと、1万円札と重なって「それは大事ですな。燃やしたりしたらあかん」と勘定高い庶民は乗り出す。文化遺産と環境遺産は隣あわせ。それなら、文化財と並べて“環境財”と言えましょう。

京都市、京都府が2004年の年間観光客数等を発表しました。市内は4,554万人で前年比4.1%増、観光消費総額5,348億で前年比11.6%増、府内全部は6,866万人、2.4%増で同じく、5,795億、10.1%増です。

訪問先トップは連続18年、清水寺。世界遺産ですが、来訪者が体験するのは、お寺だけではなく、門前町と、散策道や周りの山並みもセットなのです。山河襟帯の自然環境ごとが資源です。比叡山も鞍馬山も環境財です。

万博が日本庭園の森を残したように、民間事業者の努力とともに、公共経済の利点を活かし、高温多湿のこの国の風土にあったトトロの森のような国民共有の環境財を、日本中に増やし、豊かさを次代に伝えたいものです。

祝園みなみ・まちづくり協議会(京都府精華町)の一年

【大阪事務所／高田 剛司】

「ふつう」の地域でまちづくり

住民が主体となって活動するまちづくり協議会は、コミュニティの大切さが再認識されるにしたいが、全国各地で重要な役割を担うようになってきました。

協議会が設立される背景には、例えば、マンションの建設に伴う日照問題や再開発事業、あるいは地震による被災など、何かの「きっかけ」が地域を見直す大きな動機づけになります。ところが、「すぐに対応しなければ」という切羽詰まった状況になっていない、いわゆる「ふつう」の住宅地ではなかなか「きっかけ」を見出せません。

しかし、まちづくりに関わりたい、住んでいる地域を良くしたいと思っている人たちは必ずいて、住環境だけでなく福祉や防災面など、地域ごとに何らかの課題を抱えています。

今回ご紹介する協議会は、そのような「ふつう」の地域にあたります。

地域の周辺は様変わり

京都駅から近鉄京都線が奈良行きの急行に乗り、新祝園駅(しんほうそのえき)まで約30分。この新祝園駅周辺で、一年前に「祝園みなみ・まちづくり協議会」が発足しました。

新祝園駅は、大阪都心を結ぶJR学研都市線の祝園駅と連絡して、関西文化学術研究都市の玄関口になっており、周辺住民の増加や学研都市への通勤・通学人口の増加により、駅の乗降客数も増えてきています。また、駅の西側では、土地区画整理事業が行われ、ここ数年で様子が一変しました。

丘陵部では学研都市の建設も進

み、地域の周辺における変化は、新祝園駅周辺の住民にも大きな刺激となりました。

住民主体で、できることからまちづくり

駅の西南は既存の集落、東側には主に昭和40～50年代に建設された既成住宅地が広がっています。3年前、町役場の方と一緒に地域(南区自治会)に入り、精華町のモデルとなるような「住民主体のまちづくり」を始めませんかと相談をしました。

自治会の呼びかけに集まった住民の方々(約30名)と一緒に、協議会の準備委員会を立ち上げ、まちづくり勉強会や地域のビジョンについての話し合いを進めました。また、駅前から東に道路を拡幅整備する時期であったので、植栽帯の樹種に関する提案や、一角を協議会で花植えし、管理する提案などをまとめました。

協議会設立後の一年

ときどき、協議会の方から手作りのニュースが送られてきます。記事には、地域で関心が高かった安全に係る防災訓練や38年ぶりに「とんど焼き」を復活し、大勢の参加を得て大成功したことなどが載っていました。また、準備委員会が提案した植栽帯での花植えが具体化されている記事もあり、先日、現場を訪れたところ、キレイな花壇が道に彩りを添えていました。

このような活動を見聞きすると、これからは住民が主体となって行政が応援する、そんなまちづくりが主流なのだなど、あらためて感じます。祝園みなみ・まちづくり協議会の住みやすい地域づくりの実践に、これからも注目していきたいと思います。



まちづくり協議会ニュース



協議会で管理する植栽帯の花壇

交通施設の地域商業・交流拠点化

[名古屋事務所／福井 秀樹]

元気な愛知県・西三河地域

5月30日(財)関西社会経済研究所が発表した財政力ランキングでは、トヨタ自動車関連の好調な税収を背景に愛知県西三河地域の自治体がベスト10内に4市ランクイン、トップ3(1位豊田市、2位刈谷市、3位西尾市)を占める結果になった。この西三河地域では愛・地球博の開催を契機にインフラ整備が進み、東海環状自動車道の東部区間が3月に開通。これによってアクセス環境が飛躍的に向上し、特にこれまでつながりの弱かった岐阜県東濃地域との交流が盛んになりつつある。東濃地域では住宅地、アウトレットモール、温泉地の開発が進む一方で、東濃地域に拠点を持つ食品スーパーが西三河地域に進出するなどの事例が見られる。

刈谷ハイウェイオアシス

さて、ハイウェイオアシスは高速道路の駐車場に車をとめてSA・PA周辺のレジャー施設等を利用できるようにしたものであるが、近年では一般道からSA・PAの施設を利用することもできるようになってきた。紹介する「刈谷ハイウェイオアシス」は西三河地域を通る伊勢湾岸自動車道に昨年12月オープンした施設であり、刈谷PAと岩ヶ池公園が一体化したものである。様々な遊具を備える公園の中核的部分はまだオープンしていないが、高速道路の駐車場、外から利用できる駐車場ともに週末は満車に近い状況であり、大勢の人々で賑わっている。実質的にこのハイウェイオアシスは周辺住民に対し、夜遅くまで利用できる魅力的な商業、交流の場を提供しており、高速道路利用者への便利

性提供から一歩も二歩も踏み出した新たな試みと捉えられる。

個性的、魅力的な施設群

先ず目につくのは平坦なこの地域のランドマークとなっている高さ約60mの大観覧車である。観覧車の西隣に刈谷のPRと休憩施設を兼ねたオアシス館がある。本物の万燈が飾られたエントランスで天下の奇祭「刈谷・万燈祭り」の臨場感が味わえる。地元出身のプロ野球選手、阪神の赤星憲広選手を紹介するブースも設けられている。東隣にはフードコートと売店を備えたセントラルプラザ、その下階には新鮮な野菜や果物を提供する産直市場「おあしすファーム」があり、多くの客で賑わっている。さらに東隣には南知多の有名店「えびせんべいの里」が商品を製造販売しており、最新設備によってせんべいが焼き上がる様子をガラス越しに見物することができる。その他にもホテルのラウンジのようなデラックストイレ、市内初の天然温泉「かきつばた」、個性的な飲食店など高速道路利用者、地域住民双方が魅力を感じる施設が用意されている。

交通施設とのハイブリッドによる効果

前述のように元気な西三河地域であるが、これまで気軽に立ち寄れる魅力的なスポットは少なかつたように思われる。刈谷ハイウェイオアシスの賑わいは、このような地域特性によることも大きいと思われるが、今年2月に開港した中部国際空港(セントレア)同様、交通施設と地域をマーケットとした商業・娯楽施設とのハイブリッドによる効果も大きいと思われる。交通施設の地域商業・交流拠点化がまちづくり、施設づくりのキーワードとして注目される。



刈谷ハイウェイオアシス 観覧車とセントラルプラザ



天然温泉「かきつばた」に設けられた足湯

楽農生活 “どろんこ編”

〔大阪事務所／鮎子田 稔理〕

梅雨入りを目前に控えた6月初め、神戸市西区神出の楽農生活センターの田圃の一角にやって来たのは、近隣の知的障害者更正施設「ライフセンター神戸」の入所者とスタッフ総勢約30名。この日は「どろんこ田」のイベントが行われました。

兵庫県では農作業体験など「農」との関わりを実践・実感し、より人間らしく豊かに生きるための行動を「楽農生活(らくのうせいかつ)」と位置づけ、暮らしの中で県民誰もが気軽に「農」を学び、体験し、実践できる拠点として旧農業試験場跡地を活かした「楽農生活センター」の整備・運営を進めています。

楽農生活センターの事業には学習機能を重点とした「楽農学校事業」と農作業などの体験や交流を重点とした「楽農交流事業」があり、前者は「社団法人兵庫みどり公社」が主体となり、本格的な農業をめざす人のための「就農コース」や「親子農業体験教室」などの事業を先行実施しています。後者は楽農交流事業の提案競技で選定された株式会社トーホー、老ノ口受託グループ、古神(こがみ)里づくり協議会の3事業者が主体となり、それぞれの得意分野を活かした事業を提案しており、その一部は既に実施されています。

今回行われたイベント「どろんこ田」も「楽農交流事業」のひとつとして「古神里づくり協議会」が提案・実施したもので、田植え前の田圃でどろんこになりながら遊んだ後田植えの体験を行うというものです。

最初は恐る恐る田圃に足を入れ、そのうちすっかりどろんこになってしまった人、泥の掛け合いをする人、畦道でのんびりする人、のびやかな自然の中でそれぞれ思い思いに過ごしていました。午後からは第二陣が到着し、田植え作業が行われました。一列に並んだ参加者はスタッフや古神里づくり協議会のメンバーによる指導のもと丁寧に苗を植えていきました。1時間半ほどで約200m²の田植えが終了し、農作業を終えた達成感や満足感からか誰の顔にも笑みがこぼれていました。



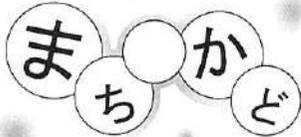
田植えの残りは古神里づくり協議会のメンバーによって田植え機を使ってあっという間に植えられました。

レストランや直売所などの楽農生活センターの本格的な施設整備は、今年度からアルパックがお手伝いをして進めて行く予定ですが、前述の「就農コース」などの他「生きがい農業コース」やトーホーが実施する「露地野菜体験コース」「里山再生塾」など様々なソフト事業は今後も断続的に実施されます。雌岡山を臨む豊かな自然の中で気軽に「農」を体験してみたいかがでしょうか。

詳しくは、
 (社)兵庫みどり公社楽農生活部
 TEL:078-361-8118
 URL:<http://www.forest-hyogo.jp/>
 (株)トーホー
 URL:<http://www.to-ho.co.jp/>

<編集後記>

読者の皆さんの住所、所属部署等の変更がございましたら、同封の宛先確認ハガキにてご連絡下さい。また、皆さんのご意見・ご感想もお待ちしております。



賑わいのある田尻漁港

〔大阪事務所／森脇 宏〕

マリナーのある漁港

ここは、関西国際空港の沿岸部・田尻町の地先にある田尻漁港です。漁港ではありますが賑わい形成に成功し、それが漁協の活性化にもつながっています。漁港内にマリナーがあり、水上バイクも保管しています。写真の海洋交流センターは水際にあり、ヨットクラブやレストランなどが入居し、ここのデッキからは素敵な夕日が眺められ、デッキの奥にはバーベキューコーナーもあります。

朝市や体験漁業などもある漁港

この漁港内では毎週日曜日に朝市が開催され、当漁港で水揚げされたもののほとんどが、この朝市で販売されています(魚市場への出荷はしていません)。朝市は午前7時から正午まで、早朝時は料理人などのプロの買出しが多く、品質の良さと価格の安さが評判を呼んでいます。

漁港からは体験漁業の漁船も出ており、漁師と一緒に刺し網漁などが体験できます。この体験漁業は、「収支的にはあわないが、漁業者の意識改革に大きな役割を果たしている」という漁協の判断と負担によって続けられています(換言すれば参加者にとってはお得なメニューです)。そして、獲った魚は漁師が捌いてくれて、



デッキからの美しい夕日

バーベキューコーナーで食べることができます。

さらに、漁港内の近くには釣堀があって、かなり流行っています。体験漁業が天候の関係で中止になったときのサブメニューとして始まりましたが、今では独自の固定客も付いて、漁協経営上重要な役割を果たしています。

組合員も増えている田尻漁協

この田尻漁港には、私が世話役をしている大阪湾学習活動交流研究会で、田尻漁協の西浦組合長のお話をうかがうため訪れました。小さい漁協ですが、こうした観光漁業とともに環境問題にも積極的に取り組み、漁師の子ども以外の就労希望者も現れていて、新たな組合員の受入(実習等は必要)で、組合員数も微増している稀有な漁協です。お話の後は、当然、夕日を眺めながら、バーベキューコーナーで美味しいとれとれの魚やビールをいただいて帰りました。

田尻漁業協同組合ホームページ
<http://www.tajiriport.com/>



漁港内のマリナー



田尻海洋交流センター

アルパック (株) 地域計画建築研究所

本 社

URL:<http://www.arpak.co.jp> E-mail:info@arpak.co.jp

京都事務所 〒600-8007京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

名古屋事務所 〒460-0003名古屋市中区錦1-19-24・名古屋第一ビル8F/TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東京事務所 〒186-0001東京都国立市北1-1-17・田畑ビル3F/TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室/TEL(03)3226-9130

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802福岡市博多区中洲中島町3-8・福岡パールビル8F/TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128